

■第24回 み言葉の分かち合い

●第一朗読 歴代誌下 36・14～16、19～23

サウル、ダビデ、ソロモン王の後、南ユダ王国のセデキヤ王は、神の道から離れ墮落する。神は預言者エレミヤをとおして回心を求めたが、王はこれに聞き従わず、耳も傾けず、悪の頑なな心の促しに従って歩んだ。

その後、バビロニアのネブカデネザル王は、南ユダ王国に攻め入りエルサレムを侵略し宮殿を破壊し、セデキヤ王を捕らえ、ユダの民の一部と一緒にバビロンに連行し捕囚にする。この期間はおよそ70年。(この時期に旧約聖書が纏められた。)

ペルシャのキュロス王はバビロンを征服し、ユダの民を捕囚から解放し、エレミヤの預言通りとなる。ユダの民はエルサレムに帰還し、神殿の再建に着手する。

この箇所は、ユダ王国の終焉、バビロン捕囚(第1回目)、ペルシャのキュロス王によるユダ王国の民の解放と帰還。そして、エレミヤの預言の実現が語られている。

●第二朗読 エフェソ 2・4～10

罪を犯して死の状態にある私たちに、神は一人子であるイエスを世に遣わし、私たちの罪を償わせた。これを行ったのは、私たちの自力による善行からではなく、創造主である神が既に用意された一方的な賜物である。この慈悲や恩に報いるには、善行罪断や愛の掟を実践する。具体的には、忘己喜主・忘己喜他の実践。これにより、新たな歩み方「現生幸就」ができます。

もうごきしゅ  
忘己喜主：己を忘れ、主が喜ぶことを行うのを、我が喜びとする。

もうごきた  
忘己喜他：己を忘れ、他者が喜ぶことを行うのを、我が喜びとする。

げんせいこうじゅ  
現生幸就：現世を生きる上で、幸福が成就する。

ぜんぎやうざいだん  
善行罪断：善を行い、罪の行為を断つ。

●福音書朗読 ヨハネ 3・14～21

民数記：神に罪を犯し、蛇に噛まれて死んだ民は、旗竿の先に掲げられた青銅の蛇を見上げて生き返った、とある。隣人愛へのなさ、他者を赦さない罪などにより、死の状態にある私たちを、神の限りない恵みと慈しみにより、イエスをこの世に遣わし、イエスの十字架での死と復活により、私たちの罪を償わせ、御子を信じる者は一人も滅びることなく、永遠の命を得させた。

御子を信じる者は裁かれず、信じない者は裁かれる。

あくあんしんこう  
悪闇真光：悪は闇を好み、真理を行う者は光に来る。